海上安全だより No. 58　平成２６年５月

# 旅客船・遊漁船の事故防止について

本年5月6日に小樽沖において、乗客45名を乗せた旅客船（観光船）が岩場へ乗揚げ、その衝撃により乗客11名が負傷する事故が発生しています。

乗客を乗せている**旅客船や遊漁船**では、**一度事故が発生すると多数の人命に関わる**重大な事故に繋がりかねません。

旅客が乗船する船舶で、近年、北海道において発生した主な事故の事例からも、その危険性を学ぶことができます。

## 平成17年6月　知床岬遊覧船 岩礁乗揚

乗客32名を乗せた遊覧船が、知床半島の景観を鑑賞してもらうため、通常よりも陸岸に近い海域を航行し、陸岸に接近し過ぎたことにより岩場へ乗揚げ、その衝撃により26名の乗客が重軽傷を負ったもの。

知床岬 遊覧船乗揚

## 平成20年11月　噴火湾遊漁船 養殖施設乗揚

釣客8名を乗せた遊漁船が、噴火湾において漂泊して遊漁を行っていたが、風に流され、付近海域にあった養殖施設のロープに推進器を絡索し、また船体にも亀裂を生じて浸水、沈没したもの。

乗客は海中に投げ出されたが、全員僚船に救助された。

## 平成24年3月　白老沖遊漁船 転覆

乗客4名を乗せた遊漁船が、白老沖において遊漁を終え、天候悪化により帰港を開始したところ、船内に海水が打ち込み船体が傾斜するとともに、横波を受け転覆したもの。

全員海上に投げ出され、僚船が乗客3名を船内に引き揚げたが、残る乗客1名は行方不明となった。引き揚げられた乗客は病院に搬送されたが2名の死亡が確認された。

白老沖 遊漁船転覆

上記事故事例は、通常の運航ルートから外れて**陸岸に接近し過ぎたこと、見張りを十分に行っていなかったこと、荒天が予想されているのに帰港を早めなかったこと**等が原因と考えられます。

気象、海象に伴う出港中止や帰港判断基準、安全な運航ルート等を定めた業務規程や安全管理規定（北海道や運輸局への届出）を遵守することが肝要です。

運航者の立場では、「少々天候が悪くても」や「せっかくの機会なので」などの乗客の期待に応えたいこと、また、利益にも関わるところでもありますが、過剰なサービス等のために**安全管理を怠ったまま運航すると大きなリスクを負うということを決して忘れてはなりません**。

お問い合わせは　第一管区海上保安本部交通部
電話 0134-27-0118（内線2615, 2616）
ＭＩＣＳホームページ　http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/

| 海難隻数及び海難による死者・行方不明者数（速報値） | |
|---|---|
| 5月 | 6隻、1人 |
| 平成26年累計 | 16隻、3人 |